

慢性甲状腺機能障害の疫学と予後に関する研究報告書

久留米大学医学部小児科 山下 文雄
林 真夫
江崎 泰之
行実 成徳

(1) スクリーニングで発見されたクレチン症の follow up

北部九州（福岡県，長崎県，大分県，佐賀県）でのクレチン症の頻度は58年1月現在1/6808であった。当科において follow up している11症例（10カ月～6歳1カ月，男児3例，女児8例）について発育，発達を検討した。DQ（津守，稲毛）ではパイロット・スタディ時の1例を除くと92～122（100以上7例，99以下2例）で，内容分析でも特異的な所見は認められなかった。発育に関しても体重で $-1.4 \sim +2.4$ S.D. 身長で -1 S.D.～ $+1.5$ S.D. の範囲内であった。

(2) 一過性高 TSH 血症

9症例のうち当科で7症例の follow up を行っている。TSH の正常化には3～15カ月（平均5カ月）かかっている。発育・発達に関して特別の問題点はなく順調である。

(3) IQ（DQ）低下を認めた症例（全国二次調査）

56年6月に行われたクレチン症全国調査集計において211名の患者が発見，治療されている。この中でIQ（DQ）の測定されている103名のうちIQ（DQ）99以下の12症例の二次調査を行い，IQ（DQ）低下の因子分析を行った（表1-a, b）。DQ（IQ）70以下の3症例では出生体重に有意の差（ $P < 0.01$ ）を認めたが，全例にIQ（DQ）の低下を来す合併症（Down 症候群2例，Cornelia de Lange 症候群1例）を有していた。在胎週数，治療開始，初診時甲状腺機能においては有意差を認めなかった。また病型では，欠損性（athyroid）にIQ低下例が多く，有意の差を認めた（ $P < 0.025$ ）。

(4) マイクロゾーム抗体陽性甲状腺機能低下症

スクリーニングで発見された2症例を含め4症例（9カ月～10歳，女児3例，男児1例）にマイクロゾーム抗体が陽性を示した。症例2,4は年齢は大きい，ともに知能障害があり（うち1例は甲状腺シンチにて低形成），乳幼児期の甲状腺ホルモンの不足を示唆している。症例3は橋本氏病の母親から出生した症例で，母親，患児ともにマイクロゾーム抗体陽性で，患児は乳児期より甲状腺ホルモンの補充をうけているが，投与量からみると一過性甲状腺機能低下症の可能性がある。症例1は生後20日にマイクロゾーム抗体陽性（ $\times 6,400$ ）で4生月には陰性化している。治療は22生日より開始している。発育・発達には異常ない。

これらのマイクロゾーム陽性の症例はクレチン症の病因を考える上で興味深く，今後の精密検査および注意深い経過観察を要す。

图 1-a

	出生体重 (g)	在胎週數	治療開始 (日)	初診時甲状腺機能	
				T S H	T 4
全国集計	3126± 541 (n=202)	38.8± 2.1 (n=202)	43.7± 33.3 (n=191)	151±102 (n=93)	4.2±3.0 (n=181)
DQ (IQ 80~90)	3273± 427 (n=9)	40.5± 0.7 (n=9)	51.8± 33.1 (n=9)	407±227* (n=7)	3.0±2.5 (n=9)
DQ (IQ 70以下)	2293± 350** (n=3)	39.6± 0.5 (n=3)	56.6± 12.5 (n=3)	145± 19 (n=3)	3.7±2.5 (n=3)

* p < 0.025

** p < 0.01

图 1-b

	合併症 (+)		合併症 (-)		病 異所性		型 欠損性	
	例数	(%)	例数	(%)	例数	(%)	例数	(%)
全国集計	27/170 (15.8)		143/170 (84.1)		74/103 (43.5)		29/103 (28.1)	
I Q 90以下	4/12 (33.3)		8/12 (66.6)		2/8 (25.0)		6/8** (75.0)	
I Q 70以下	3/3*** (100.0)		0/3 (0.0)		0/2 (0.0)		2/2 (100.0)	

*** p < 0.005

** p < 0.025

(): %

図2-a

マイクロゾーム陽性甲状腺機能低下症

症例	年齢	性別	初診時TSH T ₄	甲状腺機能 T ₃	マイクロゾーム	サイロイド	甲状腺腫	知能障害	病型	
1.S.K.	9か月	女児	340	3.5	119	×6400	×20	-	-	未
2.N.Y.	5才	女児	283	6.0	132	×6400	-	-	+	未
3.A.N.*	1才	女児	310	0.3	50	×1600	×20	-	-	未
4.K.M.	10才	男児	320	0.9	31	×6400	×20	-	+	低形成

* 一過性甲状腺機能低下症?

図2-b

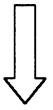
母親の甲状腺機能

症例No	TSH	T ₄	T ₃	マイクロゾーム	サイロイド	甲状腺腫	診断名
症例 1				×20	×20	-	
症例 2	2.6	7.9	140	×20	×20	-	
症例 3				×1600	×100	+	橋本氏病



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



(1)スクリーニングで発見されたクレチン症の follow up

北部九州(福岡県,長崎県,大分県,佐賀県)でのクレチン症の頻度は58年1月現在1/6808であった。当科において follow up している11症例(10ヵ月~6歳1ヵ月,男児3例,女児8例)について発育,発達を検討した。DQ(津守,稲毛)ではパイロット・スタディ時の1例を除くと92~122(100以上7例,99以下2例)で,内容分析でも特異的な所見は認められなかった。発育に関しても体重で $-1.4 \sim +2.4S.D$ 身長で $-1S.D. \sim +1.5S.D.$ の範囲内であった。